

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年2月14日
【四半期会計期間】	第16期第2四半期（自 2021年10月1日 至 2021年12月31日）
【会社名】	株式会社デュアルタップ
【英訳名】	Dualtap Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 臼井 貴弘
【本店の所在の場所】	東京都品川区西品川一丁目1番1号
【電話番号】	03-6893-0001
【事務連絡者氏名】	執行役員財務経理部長 今泉 裕子
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区西品川一丁目1番1号
【電話番号】	03-6893-0001
【事務連絡者氏名】	執行役員財務経理部長 今泉 裕子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第15期 第2四半期 連結累計期間	第16期 第2四半期 連結累計期間	第15期
会計期間	自2020年7月1日 至2020年12月31日	自2021年7月1日 至2021年12月31日	自2020年7月1日 至2021年6月30日
売上高 (千円)	2,142,161	4,410,092	6,147,971
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	100,994	176,990	60,175
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期 純損失 ( ) (千円)	79,727	130,774	11,931
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	79,644	131,412	11,997
純資産額 (千円)	1,941,984	1,862,447	2,034,840
総資産額 (千円)	6,747,681	6,631,953	7,387,339
1株当たり当期純利益又は 1株当たり四半期純損失 ( ) (円)	23.24	38.10	3.48
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	-	-	3.47
自己資本比率 (%)	28.7	28.0	27.5
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	3,393,261	816,627	4,249,192
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	26,740	519	42,140
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	2,791,705	762,617	3,272,989
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (千円)	913,556	577,499	523,740

回次	第15期 第2四半期 連結会計期間	第16期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自2020年10月1日 至2020年12月31日	自2021年10月1日 至2021年12月31日
1株当たり四半期純損失 ( ) (円)	6.72	28.19

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
3. 第15期第2四半期連結累計期間及び第16期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第 2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第 2 四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第 2 四半期連結累計期間（2021年 7 月 1 日～2021年12月31日）におけるわが国経済は、新型コロナワクチン接種が若年層まで行きわたるようになったことにより、デルタ株の感染拡大に歯止めが掛かりはじめ、これに伴い、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等の対策が解除されたことで、ようやく経済活動が平常に戻りつつある兆しを見せ始めたかに思われました。しかしながら、12月には、南アフリカ共和国に端を発した、新たなオミクロン株が、欧米諸国を中心に猛威を振るい始め、日本でも急速な感染拡大により、再びまん延防止等重点措置等による水際対策が避けられない状況となりました。アメリカを中心に景気回復が進むなか、オミクロン株の脅威、世界的な半導体供給不足の影響、原油価格の高騰、原材料費の上昇等、景気の先行きは不透明な状況であります。

首都圏のマンション市場は、2022年 1 月25日に発表された2021年12月および同年 1 年間（1-12月）の首都圏マンション市場動向（株式会社不動産経済研究所調べ）によると、新規供給戸数は3万3,626戸と前年比で23.5%増と2年ぶりに3万戸を突破し、1戸当たりの平均価格は6,260万円と前年比2.9%増加となっております。こうした需要の増加傾向により、中古マンションにおいても、都内では18か月連続で販売価格が上昇しております（株式会社東京カンテイ調べ）。

当グループの属する資産運用型マンション市場では、感染症の拡大防止策等による東京への人口流入の減少や給与所得の悪化による賃料上昇の鈍化等が懸念されますが、一方で、羽田空港関連の需要はエアラインの再開により復活の兆しが見え始めました。東京23区では、賃料は緩やかに上昇し、入居率は高水準を維持しております。今後も賃貸マンションの需給のバランスが急激に変化することは想定されず、賃料や入居率の大幅な変化はなく、マンションの資産性は維持されるものと考えられます。

このような事業環境の中、当社グループは、「23区・駅近・高機能マンション」をコンセプトに、資産運用型マンション「XEBEC（ジーベック）」の開発・分譲を行ってまいりました。真に価値ある商品を提供するとともに、資産運用中のバリューアップに貢献する様々なオペレーションを展開してまいりました。その結果、「XEBEC（ジーベック）」シリーズは、投資商品としての資産価値を向上させ、安定収入が見込めるマンションブランドとして、全国の投資家より高い評価をいただいております。

以上の結果、当第 2 四半期連結累計期間は、売上高44億10百万円（前年同期比105.9%増）、営業損失1億17百万円（前年同期は営業損失81百万円）、経常損失1億76百万円（前年同期は経常損失1億円）、親会社株主に帰属する四半期純損失1億30百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失79百万円）となりました。

なお、当社グループの主力事業である不動産販売事業は、顧客への物件引渡しをもって売上が計上されます。そのため、物件の竣工や引渡しのタイミングにより四半期ごとの業績に偏重が生じる傾向があります。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### （不動産販売事業）

不動産販売事業においては、資産運用型マンション「XEBEC（ジーベック）」に加え、中古マンションを取り扱ってまいりました。個人投資家だけでなく、私募REITへ販売する等、販売チャネル及び顧客層の拡大に努めてまいりました。

以上の結果、売上高37億42百万円（前年同期比149.9%増）、セグメント損失1億9百万円（前年同期はセグメント損失1億18百万円）となりました。

#### （不動産管理事業）

不動産管理事業は、賃貸管理事業及び建物管理事業より構成されております。賃貸管理においては、募集賃料の見直し及び空室率の低減に注力し、管理物件の資産性向上を図ってまいりました。建物管理においては、当社が分譲した物件以外の新規契約獲得を推進してまいりました。

以上の結果、売上高5億38百万円（前年同期比8.2%減）、セグメント利益11百万円（同80.9%減）となりました。

(海外不動産事業)

海外不動産事業においては、マレーシア国内の建物管理事業では、住宅だけでなく商業施設等の管理推進を図り、管理戸数が1万戸を超えました。海外の富裕層等への「XEPEC(ジーベック)」の分譲や企業の海外進出支援に関しては、感染症対策による渡航制限等により営業活動が一部制限されておりました。

以上の結果、売上高1億6百万円(前年同期比114.5%増)、セグメント損失18百万円(前年同期はセグメント損失21百万円)となりました。

(営業支援事業)

営業支援事業においては、法人向けに営業活動全体のコンサルティングを行っております。主に製造、技術等に経営資源を集中している企業に対して、営業戦略の立案、営業人員の採用、ターゲット企業の選定から企業へのアプローチや営業代行等、コンサルティングから現場レベルのBPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)まで総合的な支援を行っております。

以上の結果、売上高21百万円(前年同期比194.6%増)、セグメント損失5百万円(前年同期はセグメント損失3百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末から7億55百万円減少し66億31百万円となりました。総資産の減少の主な要因は、前期より契約済みの物件が竣工し引き渡しを受けたことで、仕掛販売用不動産が8億66百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末から5億82百万円減少し47億69百万円となりました。負債の減少の主な要因は、長期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)が15億39百万円減少、短期借入金が8億63百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末から1億72百万円減少し18億62百万円となりました。純資産の減少の主な要因は、期末配当金の支払いにより利益剰余金が39百万円減少、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により利益剰余金1億30百万円減少したことによるものであります。

以上の結果、自己資本比率は28.0%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ53百万円増加し、5億77百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は8億16百万円(前年同期は33億93百万円の支出)となりました。主な収入は、棚卸資産の減少額8億13百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により支出した資金は0百万円(前年同期は26百万円の支出)となりました。主な支出は、差入保証金の支出2百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は7億62百万円(前年同期は27億91百万円の収入)となりました。主な支出は、販売用不動産の分譲に伴う、長期借入金の返済による支出36億5百万円であり、主な収入は、長期借入れによる収入20億39百万円、短期借入金の純増加額8億63百万円であります。

(4) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

なお、当第2四半期連結累計期間における新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項 追加情報」に記載のとおりであります。

(5) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(6) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(7) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	10,080,000
計	10,080,000

##### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2021年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2022年2月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,432,900	3,432,900	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	3,432,900	3,432,900	-	-

(注) 提出日現在発行数には、2022年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2021年10月1日～ 2021年12月31日	-	3,432,900	-	217,305	-	151,101

## ( 5 ) 【大株主の状況】

2021年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
株式会社Dimension	東京都大田区南千束1-8-18	1,235,000	35.98
株式会社シーラホールディングス	東京都渋谷区広尾1-1-39	291,500	8.49
白井 貴弘	東京都大田区	181,000	5.27
a uカブコム証券株式会社	東京都千代田区大手町1-3-2	166,500	4.85
杉本 宏之	東京都港区	88,300	2.57
松永 功司	東京都大田区	62,900	1.83
天田 浩平	東京都新宿区	62,000	1.80
白井 英美	東京都大田区	60,000	1.74
株式会社日本ワークス	東京都渋谷区桜丘町20-1	60,000	1.74
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1-6-1	57,443	1.67
計	-	2,264,643	65.97

## ( 6 ) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2021年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,431,600	34,316	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 900	-	-
発行済株式総数	3,432,900	-	-
総株主の議決権	-	34,316	-

## 【自己株式等】

2021年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社デュアルトップ	東京都品川区西品川 一丁目1番1号	400	-	400	0.01
計	-	400	-	400	0.01

## 2【役員の様況】

前事業年度の有価証券報告書提出後、当四半期累計期間における役員の様動は、次のとおりであります。

### (1) 退任役員

役職名	氏名	退任年月日
取締役 財務経埋部長兼業務管理部長	本田 一郎	2021年10月20日

(注) 本田 一郎は、辞任により退任いたしました。

### (2) 異動後の役員のお女別人数及び女性比率

男性 5 名 女性 1 名 (役員のおち女性の比率16.7%)



## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（2007年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2021年10月1日から2021年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年7月1日から2021年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	523,740	577,499
営業未収入金	117,809	45,822
販売用不動産	2,764,364	2,817,037
仕掛販売用不動産	3,089,673	2,223,357
前渡金	104,335	78,442
未収入金	14,626	17,540
その他	259,599	167,625
貸倒引当金	6,128	6,493
<b>流動資産合計</b>	<b>6,868,022</b>	<b>5,920,831</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	74,964	73,634
土地	33,989	33,989
リース資産(純額)	98,720	89,871
その他(純額)	8,715	7,273
<b>有形固定資産合計</b>	<b>216,388</b>	<b>204,769</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	90,899	84,406
その他	6,123	4,747
<b>無形固定資産合計</b>	<b>97,022</b>	<b>89,153</b>
<b>投資その他の資産</b>		
差入保証金	124,125	125,235
投資有価証券	32,823	33,133
繰延税金資産	1,581	52,466
その他	47,374	206,364
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>205,906</b>	<b>417,199</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>519,317</b>	<b>711,121</b>
<b>資産合計</b>	<b>7,387,339</b>	<b>6,631,953</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
営業未払金	52,720	39,331
短期借入金	56,086	919,800
1年内償還予定の社債	20,000	20,000
1年内返済予定の長期借入金	2,770,963	955,666
リース債務	25,204	26,557
未払金	64,224	67,403
未払法人税等	9,599	5,864
前受金	49,132	206,995
その他	107,124	97,967
流動負債合計	3,155,056	2,339,586
<b>固定負債</b>		
社債	50,000	40,000
長期借入金	1,985,358	2,261,197
受入保証金	98,178	76,911
リース債務	40,428	28,303
資産除去債務	23,066	23,097
その他	409	409
固定負債合計	2,197,441	2,429,919
<b>負債合計</b>	<b>5,352,498</b>	<b>4,769,505</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	217,305	217,305
資本剰余金	151,101	151,101
利益剰余金	1,662,640	1,492,393
自己株式	312	312
株主資本合計	2,030,735	1,860,487
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	1,108	1,293
為替換算調整勘定	3,002	4,933
その他の包括利益累計額合計	1,894	3,640
新株予約権	6,000	5,600
純資産合計	2,034,840	1,862,447
<b>負債純資産合計</b>	<b>7,387,339</b>	<b>6,631,953</b>

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
売上高	2,142,161	4,410,092
売上原価	1,749,606	3,970,280
売上総利益	392,554	439,811
販売費及び一般管理費	474,167	557,005
営業損失( )	81,613	117,193
営業外収益		
受取利息及び配当金	71	431
業務受託手数料	1,236	-
為替差益	1,319	4,343
法人税等還付加算金	-	1,064
助成金収入	15,671	-
その他	411	710
営業外収益合計	18,710	6,549
営業外費用		
支払利息	25,972	39,191
支払手数料	11,382	26,799
その他	736	354
営業外費用合計	38,092	66,346
経常損失( )	100,994	176,990
特別利益		
新株予約権戻入益	-	400
特別利益合計	-	400
税金等調整前四半期純損失( )	100,994	176,590
法人税、住民税及び事業税	3,937	5,150
法人税等調整額	25,205	50,966
法人税等合計	21,267	45,815
四半期純損失( )	79,727	130,774
親会社株主に帰属する四半期純損失( )	79,727	130,774

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
四半期純損失( )	79,727	130,774
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	479	1,293
為替換算調整勘定	396	1,931
その他の包括利益合計	82	637
四半期包括利益	79,644	131,412
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	79,644	131,412

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失( )	100,994	176,590
減価償却費	14,765	13,043
のれん償却額	6,492	6,492
貸倒引当金の増減額( は減少)	699	317
受取利息及び受取配当金	71	431
支払利息	25,972	39,191
支払手数料	11,382	26,799
棚卸資産の増減額( は増加)	3,046,770	813,643
営業未払金の増減額( は減少)	8,628	13,422
前渡金の増減額( は増加)	101,785	25,893
未払金の増減額( は減少)	11,436	3,133
前受金の増減額( は減少)	4,017	157,862
受入保証金の増減額( は減少)	1,210	21,267
その他	311,413	33,062
小計	3,306,187	841,605
利息及び配当金の受取額	71	431
利息の支払額	25,064	40,554
法人税等の支払額	62,081	8,886
法人税等の還付額	-	24,031
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>3,393,261</b>	<b>816,627</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額( は増加)	3,300	-
投資有価証券の取得による支出	10,000	-
有形固定資産の取得による支出	6,472	-
無形固定資産の取得による支出	1,470	-
差入保証金の差入による支出	6,312	2,700
その他	814	2,180
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>26,740</b>	<b>519</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額( は減少)	793,968	863,714
長期借入れによる収入	2,538,717	2,039,600
長期借入金の返済による支出	467,296	3,605,858
社債の償還による支出	26,000	10,000
自己株式の取得による支出	33	-
配当金の支払額	37,488	39,301
リース債務の返済による支出	10,161	10,772
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,791,705</b>	<b>762,617</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	141	268
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	628,154	53,758
現金及び現金同等物の期首残高	1,541,711	523,740
現金及び現金同等物の四半期末残高	913,556	577,499

【注記事項】

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。なお、収益認識会計基準等の適用による当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(表示方法の変更)

(四半期連結損益計算書)

前第2四半期連結累計期間において、「営業外収益」の「その他」に含めていた「為替差益」は、金額的重要性が増したため、当第2四半期連結累計期間より区分掲記することいたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書の組替を行っております。

この結果、前第2四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において、「営業外収益」の「その他」に表示していた1,731千円は「為替差益」1,319千円、「その他」411千円として組み替えております。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響の考え方)

前連結会計年度の有価証券報告書における「(追加情報)(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)」に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について、重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
給与手当	118,579千円	124,044千円
販売手数料	43,860	110,068
賃借料	50,895	59,100
広告宣伝費	26,973	34,629

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
現金及び預金勘定	972,656千円	577,499千円
預入期間が3か月を超える定期預金	59,100	-
現金及び現金同等物	913,556	577,499

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

1. 配当金支払額

決議年月日	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2020年9月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	37,731千円	11.00円	2020年6月30日	2020年9月30日

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

1. 配当金支払額

決議年月日	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2021年9月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	39,473千円	11.50円	2021年6月30日	2021年9月30日

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自2020年7月1日至2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期 連結損益計算書 計上額(注)2
	不動産販売 事業	不動産管理 事業	海外不動産 事業	営業支援 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,497,956	587,187	49,609	7,407	2,142,161	-	2,142,161
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	5,540	-	-	5,540	5,540	-
計	1,497,956	592,728	49,609	7,407	2,147,701	5,540	2,142,161
セグメント利益又は損失( )	118,872	59,654	21,481	3,794	84,493	2,880	81,613

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額2,880千円は、セグメント間取引消去2,880千円であります。

2. セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自2021年7月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期 連結損益計算書 計上額(注)2
	不動産販売 事業	不動産管理 事業	海外不動産 事業	営業支援 事業	計		
売上高							
顧客との契約から生じる収 益	3,742,925	143,436	106,399	21,820	4,014,582	-	4,014,582
その他の収益(注)3	-	395,509	-	-	395,509	-	395,509
外部顧客への売上高	3,742,925	538,946	106,399	21,820	4,410,092		4,410,092
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	2,491	-	-	2,491	2,491	-
計	3,742,925	541,438	106,399	21,820	4,412,584	2,491	4,410,092
セグメント利益又は損失( )	109,287	11,366	18,224	5,007	121,153	3,960	117,193

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額3,960千円は、セグメント間取引消去3,960千円であります。

2. セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. その他の収益の主なものは、不動産賃貸収入であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであり  
ます。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
1株当たり四半期純損失( )	23円24銭	38円10銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失( )(千円)	79,727	130,774
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失( )(千円)	79,727	130,774
普通株式の期中平均株式数(株)	3,430,083	3,432,452
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失である  
ため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年2月14日

株式会社デュアルトップ  
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 板谷 秀穂  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 佐藤 秀明  
業務執行社員

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社デュアルトップの2021年7月1日から2022年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年10月1日から2021年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年7月1日から2021年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社デュアルトップ及び連結子会社の2021年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。